

特夏集

THE BSSC JOURNAL
特集号 2009年7月17日発行



びわこ成蹊スポーツ大学新聞 Biwako Seikei Sport College

THE BSSC JOURNAL

びわこ成蹊スポーツ大学の「今」を伝える

© びわこ成蹊スポーツ大学新聞編集部

発行=びわこ成蹊スポーツ大学メディア研究会 〒520-0503 大津市北比良1204番地

http://www.bsscjournal.net/



4年生最後の大会で絶対取りたかったタイトルだったから最高にうれしい！大学の先生、テニス部の仲間、そして両親、周りの方から支えられ、励まされてきたからこそこの優勝ができたと思います。8月のインカレでもいい結果を出して、みんなの期待にこたえられるようにがんばります。



トロフィーを手にシングルス2連覇を喜び



樋口がシングルス、ダブルスの2冠に輝く

V面手にの花

関西学生テニスの頂点をかけた春季トーナメント(6月6~14日、韮ヶ崎テニスセンター)で、樋口由佳(競技スポーツ学科4年)がシングルス2連覇、ダブルスは初制覇の快挙を成し遂げた。



植田監督(右端)、部員の仲間たちも祝福

樋口の戦績▶

シングルス	
1回戦	樋口6-4、7-5秋元(同大)
2回戦	樋口6-0、4-6、6-1山口(関外大)
3回戦	樋口6-1、6-2中西(神院大)
準決勝	樋口3-6、7-6、6-2高畑(相愛大)
決勝	樋口6-2、7-5川床(親和女大)
ダブルス	
1回戦	樋口、中西6-4、6-2吉原、花畑(関学)
2回戦	樋口、中西6-3、4-6、6-4秋葉、坂谷(園田女大)
3回戦	樋口、中西7-6、6-4川口、佐々木(松蔭女大)
準決勝	樋口、中西6-4、6-4石水、橋本(関大)
決勝	樋口、中西6-2、6-3川床、青木(親和女大)



パワフルなストロークがさえた樋口

学生最後の大会に向けた樋口は、身上的粘り強さを発揮して順当に勝ち進み、シングルス決勝では、ライバルの川床美実(親和女大)に6-2、7-5のストレート勝ち。中西末希子(神院大)と組んだダブルス決勝も6-2、6-3で川床、青木香奈組(親和女大)に快勝した。樋口は1年の関西学生選手権の初

イトルを皮切りに3年の春季トーナメント、毎日選手権と合わせて大学4年で5つ目のタイトル獲得となった。樋口の身上は「我慢のテニス」である。2連覇のあったシングルス、昨年の準優勝の雪辱をかけたダブルスでも、樋口は自分のスタイルを貫いた。華麗なボレーやスマッシュを繰り出す華やかさはない代わりに、ストロークで打ち合い、きわどいコースを狙って相手のミスを狙う。シングルス決勝は、樋口独特のスタイルが随所に出ていた。庄巻は第2セットの中盤からだった。4-0リードの優位な展開が、集中力を欠いて4-4に追いつかれた。ここで樋口は「絶対負けない」と自分に言い聞かせ、自信を持ったという。この自信の裏づけには、本学のスポーツ心理学専門の豊田則成教授(競技スポーツ学科)のサポートがあった。この強い後押しがあった。スランプに悩んでいた今春、豊田教授のメンタルアドバイスを受け、サーブに入る前など左手に持ったボールをコートに弾ませるとき、心のなかで「できる」と唱えるようにいわれた。このアドバイスを忠実に実行してきた樋口は、窮地に陥った場面でも平常心を取

本格的なシーズンを迎えたアルティメットは、6月27、28日に和歌山で関西オープンが行われ、びわスポ「レイカース」の女子が3位に入った。シーズン初戦。主力の4人が教育実習で抜け、1、2、3年が中心のメンバーで挑んだ。予選リーグは社

関西オープンで3位 女子アルティメットが健闘

リ戻し、プレーにも集中できるようになった。「カット」という、どのコースを攻めるのか、相手の弱点さえもわからなくなってしまう。でも、「できる」のひところ落ちて着き、攻め手が取り戻せるようになった」という。4-4のあと互いにサーブゲームをキープしたあと樋口は、ベイスラインから正確なショットを繰り出して2ゲームを連取して3時間を超える勝負に決着をつけた。

2のワンサイドゲームで勝利。続く対戦は同じ体育系のライバル対決になった。開始直後に先取点を許して相手のペースのまま0-3のリードを許した。この出足は6-5で競り勝ち予選リーグをトップで通過した。上位トーナメントも好調で初戦の近大が、創部間もない若いチームとあって13-

めに細かくディスクをつないで得点機をつくり、9-8で競り勝った。今季はワールドの芝の張替えがあり、練習環境に恵まれていないが、吉田政幸講師がコーチとして就任。新体制で8月の学生選手権に全員が悲願の「日本一」を目指している。(競技スポーツ学科3年アルティメット部 久末純可)

6月25日、28日にかけて第35回西日本バレーボール大学女子選手権大会が広島県立総合体育館で開かれた。ほとんどの4年生が教育実習で抜ける中、今大会に向けて副キャプテンの内山を中心とした3年生以下で練習を進めてこの大会に挑んだ。春季リーグでは一部昇格を目指したが、2部6位という不本意な結果となり、西日本インカレに雪辱をかけた。また、他地区の強豪チームとの対戦を楽しみに広島入りした。春季リーグ以後、チームの弱点を改善するため選手間で何度もミーティングを重ねたり、以前より練習量、練習時間を増やしたり、内容も改善しながらチームの再建にみんなが取り組んだ。予選リーグの滑り出しは上々だった。再建に向けたみんなの努力が実り、佐賀山を中心に3年生以下で練習を進めてこの大会に挑んだ。では、1セット目を先取されたが、戦略がおりにサーブで崩し2-1で逆転勝利。決勝トーナメントに進出したが、初戦は愛知教育大(東海学連1部6位)と対戦。持ち前のフロアディフェンスが機能したが、終盤で長身の相手フロアロックに捕まり接戦の末2-3で惜敗した。しかし、試合後の選手表情は春季リーグと

西日本インカレ、健闘及ばず 決勝トーナメントで敗退

より練習量、練習時間を増やしたり、内容も改善しながらチームの再建にみんなが取り組んだ。予選リーグの滑り出しは上々だった。再建に向けたみんなの努力が実り、佐賀山を中心に3年生以下で練習を進めてこの大会に挑んだ。では、1セット目を先取されたが、戦略がおりにサーブで崩し2-1で逆転勝利。決勝トーナメントに進出したが、初戦は愛知教育大(東海学連1部6位)と対戦。持ち前のフロアディフェンスが機能したが、終盤で長身の相手フロアロックに捕まり接戦の末2-3で惜敗した。しかし、試合後の選手表情は春季リーグと

スタミナも驚異的だった。シングルス決勝から2時間後のダブルス決勝では、威力のあるサーブとパワフルなショットをみせた。パートナーの中西とは昨年からのコンビを組んだが、樋口が終始ゲームをコントロールし6-2、6-3で危なげなく勝った。樋口のもうひとつの強さは、筋力、持久力の強さだ。トレーニング健康コースの若吉浩二教授から「低酸素運動」を利用した筋力強化



